

# 編集後記

新型コロナ感染症が5類となり、マスクによる息苦しかった生活が徐々に快適になり始め、街中には外国人観光客の姿も数多く見受けられようになり、コロナ禍以前の状態に戻ってきている事を実感しております。

「誌上ギャラリー」は、池田敏郎先生より「涼を求めて」と題した、ミズクラゲが海水の中を涼しげに泳ぐ様子が暑さを和まし、涼を感じさせていただけの1枚が届きました。ありがとうございました。

「論説と話題」は、佐藤大輔理事より「第14回プライマリ・ケア連合学会学術大会」の報告をされております。また、山遠剛先生からは、「子供に対する新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関して ～そのシートベルト、外しますか？～」と題してご投稿いただき、ワクチンの接種に対する社会的問題にも触れられており、私も賛同させていただくところが多々ありました。ありがとうございました。

「学術」では、鹿児島市立病院 飯野聡先生より「大量肝切除におけるアジアロシンチ機能的volumetryについて」と題し、ご寄稿いただきました。また鹿児島市外科医会春季例会症例検討会から、興味ある症例として木藤正樹先生より「直腸粘膜脱症候群の1例」、宇都宮麻子先生から「腹腔鏡下に治療したダグラス窩内ヘルニアの1例」をご投稿いただきました。貴重なご報告ありがとうございました。

「随筆・その他」では、古庄弘典先生より切手が語る医学[初日カバー(2種)]が紹介されています。貴重な切手の数々いつもありがとうございます。栗博志先生からは「音楽の散歩道、その1～1950, 60年代の音楽のひとつま～」と題してご寄稿いただきました。リレー随筆は、「おいでませ山口 ～山大生活を振り返って～」と題

して白石ゆり先生より、学生時代にコロナ禍という大変な時期を経験されながら、楽しく有意義に過ごされた事柄が綴られております。先生の今後のご活躍を心から願っております。

「区・支部だより」では、紫南支部の今村直人先生から、3年ぶりの支部会の模様が届いております。久々の交流で、かなり盛り上がったのではないかと思います。私も含めてですが、多くの方々が支部会の再開を待ち望んでおられると思います。

「鹿市医郷壇」は、「浴衣」がテーマです。皆様も是非ご一読ください。

7月22, 23日は、かごしま祇園祭（おぎおんさあ）が開催されます。今年からやっとお神輿が担げるようになりました。江戸時代から悪疫退散を祈願したお祭りですので、担ぎ手の皆さん方はこれまでのうっ憤を晴らすかのように思いっきり担いでいただきたいです。

(編集委員 角 純啓)